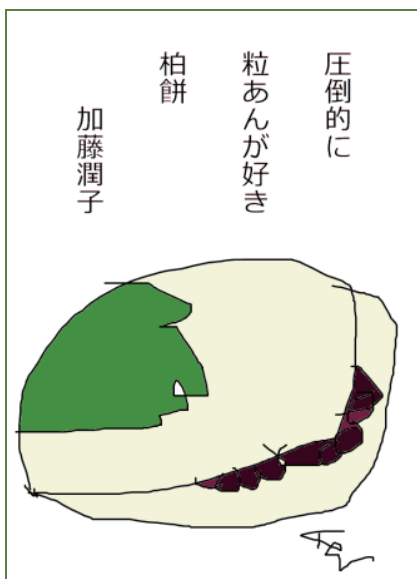


■今月の特選句

2024年7月



圧倒的に粒あんが好き柏餅

加藤潤子

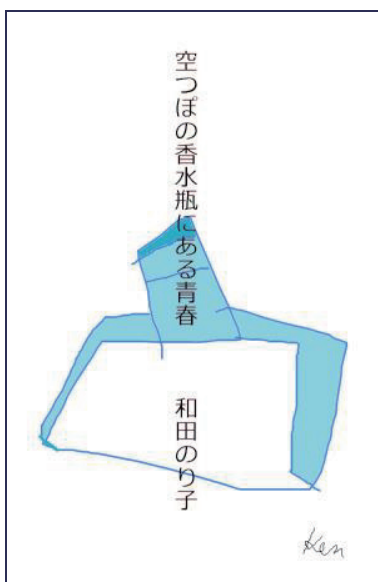
「圧倒的に」がいいね。「絶対に」とか「特別に」などとすれば普通である。言葉を自分流に使いこなせると、個性的な句が作れる。



アマリリス江戸の太夫でありんすか

敷島鐵嶺

「太夫」とは、江戸時代の最高位の遊女や芸妓のこと。容姿端麗のみならず、幅広い教養を持っていた。花の華やかさが直観的に作らせた句。



空っぽの香水瓶にある青春

和田のり子

香水瓶は空き瓶となっても香るものである。それはいつまでも脳裏に残る青春の思い出にも似ている。かすかだが、決して消えることはないのだ。



大夕立花壇の花に深情け

吉川正紀子

一雨欲しい花壇の花たちに、水分補給してやろうという夕立。手加減を知らぬから、つついサービス過剰となる。情け容赦もない降り方となる。



宅地化を厭ふひまはり手をつなぎ

横山洋子

ご近所の人達を楽しませてくれていた向日葵も、今年が見納め。どうも宅地になるらしいよ。立ち話を耳にした向日葵たちが団結して抗議。



打ち水の庭に日陰の色拡げ

柳 紅生

打ち水をすると地表の温度が下がるが、見た目に涼しさを演出するものでもある。水のかすかな影の色を「日陰の色」と名付けて詩になった。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

薫風に穴を空けたり航空ショー

・・・見上げる首の筋を傷めて

山下正純

来てたのにもういっちゃってた春どれも

・・・佐保姫様にも挨拶なしに

山本 陽

薫風やいつも遅れて来る男

・・・大物なのかルーズなだけか

長井多可志

日の本と云ふ国ほどの炎暑かな

・・・ひのもとの字は火の元なるや

北熊紀生

思ひ出のひとつところ欠けかたつむり

・・・慌てずのんびり思ひ出しましよ

日根野聖子

縄張りのやうな電線五月雨るる

・・・長方形に空は区切られ

佐野萬里子

母の日やエプロン以外を所望して

・・・エプロンならば父の日にして

井野ひろみ

今日からは家の子猫と言ひ聞かす

・・・三日もすれば威張りだすらむ

敷島鐵嶺

際立てる百合の白さを壺に活か

・・・見ている人の心も真白に

吉川正紀子

雲雀落つ撃ち落とされたかのやうに

・・・少年ゆびで撃つ真似したか

相原共良

水槽の金魚モンローウォークする

・・・魚をたとえばマリリンと呼び

柳 紅生

薫風の天をつんつん花菖蒲

・・・天空ちよつとくすぐつたくて

梅野光子

あご飛ぶや月まで飛んでゆくつもり

・・・あごは魚の飛魚のこと

ほりもとちか

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

大事件蟻は巢穴を潰されて

相原共良

十薬の跋扈の庭や主留守

相原共良

沢蟹のブツブツと独り言

相原共良

年金者もやし納豆冷奴

青木輝子

身分など問わない寝相熱帯夜

青木輝子

腹ペコでしょぼくれている鯉幟

青木輝子

新宿のわけのわからぬ夏の服

赤瀬川至安

妻の手にバリカンあれば梅雨きざす

赤瀬川至安

お気楽や見ているだけの草取は

赤瀬川至安

夏山や海みゆるまであと三歩

荒井 類

夏草のたいくつしのぎ背をのばす

荒井 類

ミサイルの飛ぶや子らには満天星（バンテイシ）

荒井 類

夏場所や太きちよん髷優勝の

井口夏子

何事ぞ忍者のやうに水馬

井口夏子

四方より眺め匙さすかき氷

井口夏子

母の日や母を背負いて三歩行かず

池田亮二

春朧老呆五欲捨て難く

池田亮二

卯の花や徂徠豆腐の卓に出て

伊藤浩睦

地下鉄の急行乗れば夏兆す

伊藤浩睦

小満の満貫いいことありさうな

伊藤浩睦

みぎ晴れてひだり雨降り梅雨晴間

稲葉純子

断捨離に優柔不断や更衣

稲葉純子

かき氷次の約束決まらずに

井野ひろみ

小糠雨口実にして昼寝かな

井野ひろみ

老ゆる程口喧しや時鳥

井野ひろみ

自転車の抜け道するり風薫る

上山美穂

夏服や片足で乗る体重計

上山美穂

六甲の雨の一日濃紫陽花

卯之町空

霊峰や神の恵みの岩清水

卯之町空

蛇いつも嫌いな人の前に出づ

卯之町空

五月雨に白無垢映ゆる賀茂の宴
五月晴山の緑のグラデーション
祝宴の膳にひと枝若楓
虫送り自然界には分解者
昼寝かな涅槃のポーズそつくり
初恋の人とフレンチ蛸の夜
山帰来の香の懐かしき柏餅
初夏の風天指す釈迦の指にかな
富士山に通行料てふ涼しさよ
春運動会うしろ姿に親心
夏風邪の薬の効き目いつくるか
姉妹麦藁かごを競ひ編む
草笛を吹いて麦秋の帰り路
麦秋や早やしやんとして雀たち
早苗束達磨の如く起き直り
御廟橋夏帽脱ぎて渡りけり
分身の如き植田を眺めけり
空蟬や撃てど当たらぬ恋の槍
山笑う海より深しコンプレックス
慎太郎刈りでサッパリ夏来たる
胃袋に収容せねば熟れた無花果
やれ涼し断水中のひと浴びは
薔薇は咲く手をかけた程色の良く
幸せよ大判焼きに新茶とは
十薬を生い茂らせて朝の雨
秋めくや美は転調にこそありぬ
砧打つ石と心をひとつにし
梅雨の日も部屋で植木に水をやり
梅雨に濡れ洗濯物の増えてゆく

梅野光子
梅野光子
梅野光子
遠藤真太郎
遠藤真太郎
遠藤真太郎
太田和子
太田和子
大林和代
大林和代
大林和代
小笠原満喜恵
小笠原満喜恵
小笠原満喜恵
岡本やすし
岡本やすし
岡本やすし
沖枇杷夫
沖枇杷夫
沖枇杷夫
加藤潤子
加藤潤子
門屋 定
門屋 定
門屋 定
北熊紀生
北熊紀生
木村 浩
木村 浩

空色のシートに収穫梅落とし
巢立鳥天使の羽根を試運転
老鶯やぎょうせん売りは遠くなり
徒長枝は有頂天なり真風やさし
患ふも窮するも諾小判草
キーキーキャーキャー五月初めの小学校
友録りし螢合戦の動画光り合ふ
すべると走りサッカー少年は
緑蔭の先にお社古き道
夏の海よ乱反射する青春よ
ダンディの秘訣早めの更衣
壁を這ふキの字はキキと羽蟻追ふ
泳ぐ子の空に爆音沖縄忌
烏来て枇杷熟れたるを覚りけり
野鹿らはスナッフ豌豆食ひ荒す
泰山木の花が楽しみ落葉掃き
田舎者梅の実を刺すピンヒール
サングラスかければ旭裕次郎
薫風に一步前出るトイレかな
春耕や妻の多弁に拗らず
抱く猫の欠伸われもや春の雨
父の日の父の背中のよく笑ふ
口笛の吹けぬ腕白草の笛
富士褒めて駅弁褒めて新茶飲む
父の日も母の顔色問う父よ
甲骨と共に引き抜く烏賊の魂
空ばかり見て来た私の影法師
コクコクコク水 褒められるから
尻餅をつきつつ笑顔の田植かな
小満や庭の玉葱太るかも

工藤泰子
工藤泰子
くるまや松五郎
くるまや松五郎
くるまや松五郎
黒田恵美子
黒田恵美子
黒田恵美子
桑田愛子
桑田愛子
ささのはささら
ささのはささら
ささのはささら
佐野萬里子
佐野萬里子
佐野萬里子
敷島鐵嶺
敷島鐵嶺
壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次
白井道義
白井道義
白井道義
鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝
高須賀溪山
高須賀溪山

石仏や頭はかたし昭和の日

くじ引きの役目をもらい夏芝居

夕立や調べは同じゴロゴロと

老人に幼児性あり若葉風

老ゆる身に堪えてをるや若葉寒

人生も吹き流さるや若葉風

金魚死す極楽池の混み合つて

六月の華奢な嫁御の通りけり

私を刺した海月はどこのどいつ？

青嵐銀じやないのに銀閣寺

幼少のあだ名は四股名つばめの子

新聞で折りし兜に円安の見出し

意地つ張りされど氷菓はすぐに食べ

なぞなぞを投げつける子の虫刺され

蛍飛ぶソーシャルダンス誘われて

オリンピック選手にならむ油虫

あれがなに指示語ばかりや牛蛙

たまにはと女子職員の汲む新茶

跡取りの住まぬ生家の青大将

短夜や頭冴えれば夢も見ず

鉢植えのトマトは幾つ実のるやら

新玉のスライス食べて病み払い

舌出してせせら笑へり春浅蜩

フラの手の海月さながらふらふらら

かつぽれもダンスも得手や猫じゃらし

水溜りへの経路は不明あめんぼう

背の宇宙重過ぎ転ぶ天道虫

六年の労も道後のビアで癒え

じじばも身綺麗にして更衣

蝮酒五期をつとめる大統領

あぢさゐやああ上野駅口遊び

高田敏男

高田敏男

高田敏男

田中 勇

田中 勇

田中 勇

田中やすあき

田中やすあき

谷本 宴

谷本 宴

谷本 宴

月城花風

月城花風

月城花風

土屋泰山

土屋泰山

土屋泰山

長井多可志

長井多可志

長井知則

長井知則

長井知則

西野周次

西野周次

西野周次

花岡直樹

花岡直樹

花岡直樹

浜田イツミ

浜田イツミ

浜田イツミ

さみだれの議事肅々と脱線す

いかほどもなき水に浮き早苗舟

一生は単衣の軽さ伸子張り(しんしばり)

雷鳴に念仏唱ふ鍼治療

潮干狩ここ掘れわんわん父が吠ゆ

肉よりも添ふるキャベツが高騰し

けんかして仲直りしてさくらんぼ

自己主張するのが仕事燕の子

パセリ食む今日のわたくしほろ苦し

手に届く土用蛭で痩せ我慢

まずビール糖質オフに安堵して

焼き茄子に生姜で一寸匂を添え

四県の緊縛強盗梅雨の闇

ゼラニウム出窓の外の雨の音

ひたすらに首切り落とすバラ仕事

バラ園のフォトスポットにモデル犬

火蛾の自死付和雷同にやあらむ

明易や夢の途中を絶つ廁

安全と円安が好き通し鴨

どや顔で蟻渡り行く四畳半

せがむ仔を親が宥める燕の巢

蟻喰らひ薄馬鹿下郎天を舞ふ

新馬鈴薯のうす皮へろと剥ぐ未来

かな遣ふひめちよをんを茶化すかに

何事も変はらぬ素振り孕み猫

年重ねゴミの減らざる五・三〇（ゴミゼロ）の日

黄砂降る赤き色にはならぬよう

あざとさを使いこなして七変化

壁の落書き一筆の蟻の列

ハンカチを君の涙にプレゼント

東 麗子

東 麗子

東 麗子

久松久子

久松久子

久松久子

日根野聖子

日根野聖子

日根野聖子

細川岩男

細川岩男

細川岩男

ほりもとちか

ほりもとちか

南とんぼ

南とんぼ

峰崎成規

峰崎成規

峰崎成規

明神正道

明神正道

明神正道

棕本望生

棕本望生

村松道夫

村松道夫

村松道夫

森岡香代子

森岡香代子

森岡香代子

梅雨激し線状降水帯でふ帯めて

ペンキ塗りたてゆえに動けず青蛙

苔威張る苔でも花は咲かせると

睡蓮園ここから先は二百円

味ならば鰻に限ると今日も言う

仏壇にパイナップルが鎮座する

夜食より昼食重視新社員

心棒が逆回転し敗戦忌

ハナの差を知っているらしダービー馬

逃げ足ならぬ逃げ腹速いなめくじら

豹柄になれば食べ頃島バナナ

そういえば頭は何処に穴子飯

夏めくや私の元気と引き換えに

水を得て早や住み込むは蛙かな

礼金の代わりとばかりに蛙鳴く

夜泣きではないが夜鳴く蛙かな

梅雨寒の鼻に汗かき海老ドリア

万緑や長い木の橋（長生きの橋）蓬莱橋

水槽のメタボの金魚どうします

のそり這ふ雨に歓喜のかたつむり

独り居のぼやきを聞かず大輪の百合

親燕まねて給餌の一番子

紙魚の巣窟百科事典は置物に

豆の飯ほこほこほこともう一口

白鼻心めだか百匹搔つ攫ふ

八木 健

八木 健

八木 健

八塚一青

八塚一青

八塚一青

柳 紅生

柳 紅生

柳村光寛

柳村光寛

柳村光寛

山内 更

山内 更

山下正純

山下正純

山下正純

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子